

2016J2

■順位表■第11節(暫定)

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	札幌	23p	+9	15	6	H●
2	C大阪	23p	+5	12	7	
3	町田	22p	+7	14	7	A△
4	山口	21p	+4	17	13	H●
5	岡山	19p	+5	16	11	
6	清水	18p	+5	15	10	
7	松本	16p	+3	11	8	H●
1*	8 京都	16p	+2	13	11	
9	讃岐	16p	+1	15	14	A●
10	岐阜	16p	-4	14	18	---
11	千葉	15p	-1	11	12	
1*	12 横浜FC	14p	+3	12	9	
2*	13 愛媛	14p	0	7	7	AO
4*	14 熊本	13p	+2	7	5	
1*	15 水戸	11p	0	9	9	HO
16	徳島	11p	-4	9	13	AO
17	東京V	10p	-5	7	12	
1*	18 山形	9p	-3	8	11	
19	群馬	8p	-3	10	13	A●
1*	20 長崎	8p	-7	8	15	
21	北九州	7p	-9	8	17	HO
1*	22 金沢	2p	-10	8	18	AO

注：*のついたチームは消化試合が
前の数字だけ少ない(1*は1試合)

次回HomeGame

第15節 vs.モンテディオ山形

5/28(土) 16:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

心の花が咲く..

何も無い店だけど..

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : 清水エスパルス

2015 J1 5勝10分19敗 勝ち点25:17位

直近の対決と結果

初対戦

ここ3試合の公式戦の結果

	FC岐阜	清水エスパルス
2016/05/03 J2-11節@町田 町田 1-1 岐阜	2016/05/03 J2-11節@西京極 京都 2-1 清水	
2016/04/29 J2-10節@長良川 岐阜 1-2 山口	2016/04/29 J2-10節@アイスタ 清水 4-1 金沢	
2016/04/23 J2-09節@石川西部 金沢 1-2 岐阜	2016/04/23 J2-09節@本城 北九州 1-2 清水	

清水エスパルス:

いわゆる「Jリーグ・オリジナル10」の1つで、Jリーグ創設の際に母体となるJSL加盟チームを持たずに参加した唯一のクラブ。J1リーグ・ステージ優勝1回、天皇杯優勝1回、ナビスコ杯優勝1回、ACWC(アジア・カップウィナーズ・カップ)優勝1回の実績を誇る。2015シーズンは極度の不振に陥り、3試合を残して年間16位以下が確定、J2降格となる。FC岐阜のトップチームは初対戦だが、FC岐阜セカンドが2011年11月に天皇杯で対戦している。(清水2-0セカンド)
(吉田鑄造)

●GW3連戦の初戦・4/29(金)第10節・ホームでの山口戦を、先制しながらも1-2の逆転負けで落としたFC岐阜。組織力の違いを見せつけられた悔しい敗戦だったが、つづく5/3(火)第11節・町田戦は、中3日でのアウェイしかも首位との厳しい一戦を、1-1のドローに持ち込むことができた。この2戦の結果、岐阜の順位は10位へと下降。まだ暫定順位なので14位にまで下がる可能性は残しているが、それでも11試合で勝ち点16は2014年シーズンと同じペース。開幕2戦の大敗で得失点-4が不利な影響を及ぼしているものの、プレーオフ圏内まで勝ち点差2の好位置につけ、7位・松本~13位・愛媛の7チームが勝ち点3以内という中位の大混戦の中にも残っている。ここから順位を上げるためには、今まで以上に「下位のチームから勝利を獲りこぼさず、上位のチームから勝ち点を奪う」ことが求められるだろう。これまでJ2全22チーム中、11チームと対戦して5勝1分5敗と全くの五分。今後は、暫定順位で言えば上位4チーム・下位6チームとの対戦を残している。上位チームとの対戦となったGW3連戦は、これまで2試合で1分1敗。次は勝利で終わらせたいところだ。

さて、そのGW3連戦最後の対戦相手は、現在6位の清水エスパルス。言わずと知れたJリーグ「オリジナル10」そして初の「市民型・地域密着型」クラブだ。今年は初のJ2リーグに若干苦しんでいるが、それでもしっかりプレーオフ圏内はキープ。前節、京都に負けていることもあり、今節は連敗回避&上位定着を目指す清水との対戦は、GW連戦で疲労の残る選手たちには厳しい相手となるだろう。

清水で最も警戒すべき選手は、現在8得点でリーグ得点王の#10大前元紀だ。彼がゴールを決めた5試合は4勝1敗、まさにチームの大黒柱だ。また、元北朝鮮代表の#9鄭大世も徐々に調子を上げ、直近4試合で3ゴール。この2トップを止めなくては岐阜の勝利はない。岐阜の守備陣の活躍に期待したいが、その中でも特に#4岡根直哉は2008年から3年間特別指定を受け、2015年に岐阜に完全移籍するまでは清水に所属(山形や栃木へは期限付き移籍)していた選手だ。また、ともに青少年時代を清水FC(エスパルスの前身クラブ)ジュニアユース→清水商で過ごしてきた#5青木翼と#14風間宏矢にとって、エスパルスは元チームメイトも多く、身近で特別なクラブのはずだ。彼らの闘志は大きく燃え立っているだろう。彼らの活躍に期待したい。

また、清水サポーターの応援は「サンバ隊」と呼ばれ、独特のリズムを奏でることで有名だ。清水には南米出身の選手はおらず、このリズムで岐阜のブラジル選手たちの気持ちに乗ってくると嬉しいが、ホームスタジアムの応援で負ける訳にはいかない。僕らも大きな声と拍手で選手たちを後押しし、試合終了後には清水の「勝ちロコ」ではなく岐阜の「アイーダ」を、この長良川に響かせよう。(ささたく)



「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!

アドレスが変わりました

gidaidohri@gmail.com

【第10節】岐阜 1-2 山口

●試合後にブーイングが起こって、それが審判へのモノだとは気づいたけれども、判定うんぬんじゃなく、はっきりいつて力負け。少なくとも現時点で到達してるサッカーのレベルの差が如実に出た試合だったと思う。もちろん、自分も試合中にはウチの不利な判定には不満の声を挙げたし、「キミは勤皇派か！」などつまらんヤジも飛ばした。そういうのが積み重なって試合後のブーイングになったとしたら、少なからず反省しなければ、と思った次第。

試合は、と言えば先述の通りの力負け。個の力で組織に立ち向かいましたが、後半に力尽きた感。偶然っぽい先制点も含めて上出来な前半でしたが逃げ切れず。とはいえ、山口の厚みのある、そして連動感あふれる攻撃に対し、守備陣がここまで持ち堪えるとは予想外。得点も決めた苅部はこれまでとは見違えるような働き。岡根のアンカーも効いてたし、守備陣に対してはジャンピング土下座しなきゃいけないレベルでした。逆に案外だったのが攻撃陣でした。

結果としては、ピッチを広く使い、空いたというより開けたスペースに飛び込んで行く山口にヤラれてしまった。J2、J3のハイライトでしか見てない自分が言うのも何ですが、エースの岸田がいない今なら……という皮算用も届きませんでした。特に、攻撃に転じた後のゴール前、アタッキング・サードと呼ばれる地域に入った時のダイレクトなパス交換には驚嘆の念を禁じえません。映像では見えても、まさに交換。きちんと繋げているのと、味方からパスが出るのを信じてスペースに走り込んでくるのが素晴らしい。それに相反してウチの攻撃は偶然に頼ったフィードのみ、と言ってはキビシすぎるかな？以前から書いていますが、仲間への愛情が足りないとも言えるような「何とかして。」とか「あとはヨロシク。」的なパスが散見されるのはどうしてなのでしょう？もっと丁寧に、味方に届くようにしなければ、そのたびに後ろ向きに走らなければならない。そりゃあ、ストレス溜まりますって。だから、つまらないファールも増えるんじゃないでしょうか？また、ブラジル人選手との意思疎通、共通理解もまだ足りないような気がします。後半の右サイドでどフリーな磐瀬ではなく、レオミにパスを出した場面とかを見ると、心配になりますね。あと、もったいなかったのが先制した後のカウンターチャンスで泰輔のパスが右に流れ過ぎた場面。最後は惜しいシュートを放ちましたが、最初のパスをきっちりブルーノに渡していれば……。最近、惜しいミドルが撃てているので、得点の匂いはしていると思うし、もっと決定的な場面を演出できると思うんで頑張ってもらいたいですね。

総じていえば、ウチの選手もがんばりましたが、後半は一对一でも遅れをとってる場面が散見されたな、と。球際とか、あと一歩、もしくは半歩で負けてたらね。監督が言うところの「一对一で負けたら話にならん。」です。ソコが納得出来なかったんで、挨拶に来た選手に拍手やコールではなく、檄っぽい言葉を掛けた次第。届いたとは思いますが（苦笑）、選手たちには何が不足していたのかわかってきてると信じてます。厳しい試合はまだまだ続きますが、共に頑張っていきましょう！（ぐん、）

●前回のホーム松本戦に続き、今節も強風が吹き荒れる長良川。前回同様に看板等の設置も心配されたけれど、何とか通常通りに開催となった。前回とは異なり天気が良いのは救いだけれど、この強風が試合に凶と出るか吉と出るか…そんな心配を抱えながらの試合となった。

この試合の勝敗のポイントは、強力な山口の攻撃陣を岐阜の守備陣がいかにして防ぐかで、当然ながら僕もそれに注目していたんですが…しっかり機能してるじゃないですか守備が（笑）。僕は、カテゴリーが上の選手というのは、もちろん技術的な巧さも備えているのだと思うのだけれど、それと同様に「判断力の速さ」が重要だろうと以前から感じてまして。

それが、山口の攻撃は…何と言えいいのかな、「判断を速く」というレベルじゃなくて「判断する必要がない」レベルにまで徹底的に鍛え上げられた“定石”を、攻撃のスイッチを入れた瞬間にノータイムで打ち込んでくる、ということで克服しているように思えてまして。だから攻撃のスイッチを入れさせないのが正解で、そのために#4岡根をアンカーにしてプレスを仕掛ける守備のシステムが、しっかりハマっていた。先制点は…まあ、風向きもあってラッキーだった面もあるけれど（苦笑）。それでも山口のシュートをわずかに抑えて前半終了。このプラン通りに後半も…と思ってたけれど、やはりそうサッカーは甘くない。風上に立ったこともあり、修正してきた山口は岐阜の陣地に襲いかかり、得意の“定石”を打ち込んでくる。そのボール運びの速さに必死で食らいついて対応する岐阜の守備陣。1失点目は少し不運だったけれど、でもCK時のゴールエリアでスペースを空けてしまっただけは、ああいう失点が起きてしまうのもやむを得ない。そして、走らされることで徐々に体力を奪われ、守備網に綻びが出てくる。逆に攻撃陣は風下でパスが通せなくなり、ずっと我慢の時間帯が続いていた岐阜のブロックを、ついに山口の攻撃陣がこじ開けて逆転。そして、そのまま試合は終了。前半とは全く逆に、計7本のシュートを山口に撃たれてしまった。確かに前半の岐阜は素晴らしい出来だった。山口の攻略法も（なんとなく）見えたような気がした。しかし、後半は全く逆の結果。ハーフタイムに問題点をしっかり修正できる組織力の違いと、やはりサッカーは90分で戦うものだというのを、悔しさと共にあらためて思い知らされた敗戦だった。（ささたく）

●実はこの1週間前に山口のホーム・維新陸上で「山口vs千葉」を観戦していた。山口が4-2で千葉を破った試合だが、スコア以上に「内容の差」というものを感じて、その試合を観ながら「金曜の岐阜はどうなるんだ、勝てる気がしないんだけど」と震えていた。とにかく山口の攻撃陣がすばらしく、相手DFラインの前、いわゆる『バイタルエリア』に侵入すると途端にスイッチが入って、スペースへの走り込みとパス、さらにそこからのパスとすべてワンタッチで動いていく、高度なオートメーション攻撃。かなりの練習を積まないところまでの攻撃コーディネートは出来ない。そんな山口を相手に、岐阜の守備陣は持ち堪えられるのだろうか……。

結論から言うと、「十分持ち堪えた」と思う。特に岡根のアンカーがすごく効いていて、攻撃スイッチが入る直前に山口の攻撃を止めることが何度もあった。苅部もCBの仕事がよく出来るようになってきたようで、千葉戦を現地で視た身としては「よく2点で防いだ」と守備陣を誉めたいくらい。逆にモノ足りなかったのは攻撃陣で、先制点は「そこに苅部のアタマがあった」というラッキーなゴールだし（「そこにアタマがある」というのもゴールゲットの大事な要素ではあるのだけれど）、あとはタイスケのミドルくらいしか見せ場はなかったんじゃないだろうか。実は山口のCBは中はカタめるもののサイドからの仕掛けに弱く、ゴール前でクロスをファーサイドに振ると容易に剥がされてしまうという欠点がある。そんなシーンは千葉戦でも何度かあった。そういう部分のスカウティングが出来ていれば、高さのある瀧谷をサブに入れておくとかの手もあったと思うのだが……。ホームで1点負けている状況で交代枠を1つ残したのも疑問が残るところだが、GWの連戦もあるのでベンチには考えがあるのだろう。ゴール裏の岐阜サポーターは主審のジャッジに不満があったようだけれど、ぼくは「どちらかといえば岐阜に有利な笛だった」と感じてたので意外だった。どちらのファールの際にも主審は基本的に笛を吹いてプレーを止める傾向があった。もし、岐阜がファールを犯した際に「プレーオン！」と叫んで流されてしまったら、守備が整う前にバイタルエリアに侵入されて例の「攻撃スイッチ」がONになっていたんじゃないか。そうしたら2失点では済まなかっただろう。そんな気がしてならない。（吉田铸造）

【第11節】町田 1-1 岐阜

●首位の町田相手に1-1のドローという地味なスコア。しかも、ここまで「勝つか、負けるか」のちょっと見には切った張ったの潔い？戦績を残していたので、どうせなら最終節まで「引き分けなどいらん！」とばかりにアタックして欲しかった。それが「ハデ」ってもんだろう……。スイマセン、冗談です。先述のように首位の、オマケにこのところ9戦無敗の町田に主導権を握られ、富士の負傷交替というアクシデントの中で勝ち点1を勝ち取った選手達には拍手を贈りたい。今節はスカパー！観戦だったので、そういう感想になってしまふ。ホント、いつ失点してもおかしくなかった。逆に、レオナルドの同点ミドルまでシュートが皆無、いや、シュート・チャンスすら作ることが出来なかった時には「どうなることやら……」と心配で心配。やっぱり、現地に行った方がいい。疲れるし、胃は痛くなるけど、声を出してる方がアドレナリンが出るのかな？テンションが上がるような気がする。切られても（失点しても）痛くないような気になれる（苦笑）。それにしても、スタメンを見た時の衝撃と言ったら……。結果を出せてたアンカーを置く4-1-4-1ではなく、2ボランチの4-4-2。で、ボランチが高地和泰輔。そのうえ、レオナルドも入れてて、「こりゃあ、確かにハデだ。玉砕覚悟だな。」と思えたんで、何があっても動じないように、と心に念じてキックオフを迎えた。実際、町田のサッカーはしっかり連動が出来ていて、うちからすれば失点の匂いが漂う展開。その失点はセット・プレーだったけど、ボールに反応したのは町田の中島。セット・プレーの失点シーンではよく見るパターンだったけど、FWをゴール前でフリーにするのはいただけない。厳しい注文だと思うけど、そこをなんとかしないと、これからもセット・プレーで失点を重ねることになる。ひとりひとりの集中力、執着心。わかっているとは思いますが、常に心に刻んで試合に臨んでほしい。頑張ってくれているのはわかる。わかるが、ほんの一瞬でそれが無為になってしまうのが実に惜しい。アウェイで首位相手に勝ち点を取れたのは嬉しい。この1点が終盤に重要になってくるのは何度も経験済みだ。もちろん、それを気にすることなく、シーズンを終えることができれば、それに越したことはないのだけだね。次節も強敵が相手だけど、だからこそやりがいがあるってものだ。ハデに、じゃなくてもいいんで、ひと泡吹かせてやりましょう。それにしても、レオナルドのミドルすごかった。あの流れから、あの威力。あの弾道。いや〜、イイモン見せていただきました。あと、ゴール裏の集まり具合、雰囲気素晴らしかった。現地参戦の皆様、お疲れ様でした！ありがとう！清水戦もよろしくお祈りします！（ぐん、）

●少し前からFC岐阜を応援しているサポーターなら、2012年のアウェイ町田戦は未だに覚えている方も多だろう。第40節、J2残留を掛けた最後の「裏・天王山」。ここで勝ち点を1でも積み上げれば岐阜の残留そして町田の降格が決まる一番で、まさかの0-1での敗戦。最終節で町田の降格が決まり、かろうじて岐阜は残留を果たした訳だけれど、あの時の“忘れ物”を取りに…と言いたいところだけれど、3年ぶりに対戦する町田は、なんと9試合無敗で首位。お互いに“リベンジ”をかけての一戦となった。

さて、ブラジルトリオをスタメンに揃えた試合は予想通り、岐阜の“個”と、町田の“組織”の様相ですすんでいく。ただ…このブラジルトリオ、僕には3人とも2列目から裏に抜け出すアタッカータイプに見えるんですよ…誰かがポストプレーでボールを収めないと機能しないんじゃないかな…（溜息）。でもそれだと、守備陣の枚数が不足する。ちょっと3人同時投入は無理じゃないのかしら…。また、守備陣も今日は若さが出てしまった。FKがゴールポストに当たって跳ね返ったボールを、相手に押し込まれて失点。ちょっと集中が切れてしまったようだった。この反省を次に活かして欲しい。

さて失点の少ない町田をどうやって攻略するのか…って思ってたんだけど、やはりそれを打開したのは“個”の力でしたね（苦笑）。#10レオロシャが狙い澄まして左足一閃！弾丸ミドルが美しい弧を描いてゴールネットに突き刺さり、同点！いやいや、ゴラッソでした。これはスカパー！のベストゴールにノミネートされるでしょう…って確信してたんだけど、今節は他にもゴラッソが多くて選ばれなかった。実に残念。後半はお互いに膠着した展開に。「派手にいく」んじゃなかったのかしら…と少し思いながら（苦笑）、でも首位・町田にアウェイで玉砕するよりも、手堅く勝ち点1を持ち帰ってきたことを僕は歓迎します。

それにしても、去年の金沢といい、今年の町田&山口といい、J3のレベルは上がってきていると思う。J2に降格したチームが「即J1復帰」を目標に掲げて失敗したり、あるいはJ2に降格したけれど翌年J1に昇格して優勝したりするのを目の当たりにしていて、J1とJ2の違い、少なくともチームとしての強さは、上手く歯車が噛み合うかそうでないかの違いぐらいになる可能性があるんだなあと感じてはいたんだけど、それがJ2とJ3の違いにも当てはまるのだなど。現在のJ3の順位からも、そう思います。

そして、町田のキャプテン#6李漢宰。岐阜に在籍していた時は、大怪我からの復調に苦しんでいたように思えたのだけれど、今では町田を牽引する大黒柱。J2への昇格に貢献し、今の快進撃に大きな役割を果たしている。今では敵になってしまった選手だけれど、やはり岐阜に在籍していた選手が活躍しているのは嬉しいものだし、「諦めなければ何度でもチャンスがやってくる」のがサッカー選手なのだと、しみじみと感じました。（ささたく）

【セカンド】県予選、優勝です

●FC岐阜セカンド（以下『セカンド』）は、5/1に「天皇杯県予選（社会人ブロック）」兼「全国社会人大会県予選」の決勝に臨み、FC Kawasaki（岐阜県リーグ所属）に2-1で勝利しました。例年どおりですと、「全国社会人東海予選」は岐阜県1位として“岐阜県開催”の会場で試合が出来るはずですし、「岐阜県サッカー選手権（天皇杯の県最終予選）」も社会人1位として準決勝は大学2位との対戦になるはずですよ。

そして、いよいよ5/8からは東海社会人リーグ1部が開幕です。2部から昇格の三重に伊勢志摩、去年の覇者・刈谷に強豪・鈴鹿と混戦模様の予想です。健闘を期待します。（吉田鋳造）

【ユース】リーグ戦も開幕です

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）はGW中にクラブユース選手権1試合とG1リーグ2試合を戦っている筈ですが、残念ながら締切の関係で今日お伝えする事は出来ません。吉報が届いている事を祈っています。

さて、この後の日程ですが、まずG1リーグは（県サッカー協会のサイトでは更新されていませんが）インターハイ予選の為に休みとなり、次節は6/11（土）開催予定の第4節長良高校戦です。一方のクラブユース選手権は5/15（日）12時半KOで1次リーグ最終試合となる愛知FC戦がホンダ細江グラウンドにて予定されています。そしてこの結果4チーム中上位2チームが6/12（日）に予定されている最終トーナメントに出場出来る事となります（又今年も連戦やん、何とかなんのか？この日程（涙））。最終トーナメントについては又改めてご紹介します。

頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！※試合会場・時間は岐阜県サッカー協会やクラブユース連盟、チームの公式サイトで必ず確認して下さい。（シュナ）

